

令和 6 年度 学校評価シート

目指す学校像・育てたい生徒像（スクール・ポリシー等に基づいて記載する）
豊かな心と確かな学力を身につけ、個性の伸長をはかることにより、持続可能な地域者社会の形成者として貢献できる人間を育成する。

学校評価の公表方法
学校運営協議会や育友会総会を通じて関係各位に結果を知らせるとともに、本校ホームページにおいても公表する。

現状・進捗度	A	十分に達成している。（80%以上）
	B	概ね達成している。（60%以上）
	C	あまり十分でない。（40%以上）
	D	不十分である。（40%未満）

自己評価（分析、計画、取組、評価）							
番号	計画・取組				評価（3月25日現在）		
	重点目標	現状	具体的取組	評価項目と評価指標	進捗	進捗状況	今後の改善方策
1	生徒が深い自己理解に基づき、主体的に問題や課題を発見して自己の目標を選択、設定し、目標達成のため、自発的、自律的、かつ他者の主体性を尊重しながら、自らの行動を決断し、実行する力、すなわち「自己指導能力」を獲得させることを目標とし、発達支持的生徒指導を展開する。また、学習指導と生徒指導を一体化させた授業に内在化した生徒指導、チーム学校による生徒指導体制の構築を目指す。	B	「事後」指導・援助から、「成長・発達を支える生徒指導」への転換を図り、対話を重視した個別指導を実践するとともに、アセンブリーや学年集会での規範意識の高揚を図る。 知識や思考力を育て学力を高めるだけでなく、生徒が個性を伸ばし社会性を身につけるように働きかける生徒指導の視点を意識し授業に組み込んでいく。H Rを中心とした学び合う組織づくりに注力する。 組織的・実効的な生徒指導体制を構築するとともに、学校と専門家・関係機関及び地域・家庭との連携・協働を強化し、教育相談体制の組織的な充実に取り組む。	校則や社会規範を守ることがキャリア形成に繋がるという意識を高められたか。 服装や頭髪、学校生活において改善が必要な生徒に対して、本質的な改善がなされたか。 自他の人権を尊重した言動や、共感的な人間関係を育成することができたか。 自己決定の場を提供することができたか。 安全・安心な風土を醸成できたか。 問題の予防的対応、早期発見、早期対応を組織的に行っているか。個別の事案に対し具体的な支援プランを立て、短期目標、長期目標に基づいた支援が行えているか。	C B A	生徒の主体性を尊重し、対話を重視した生徒指導への転換を図っている途上である。服装や頭髪、規範意識に課題がある生徒が一定数おり、本質的な改善には至っていない。粘り強く指導を継続している。 H Rは学校生活の基盤として、年度当初に重点的に学級づくりに注力した。徐々に学び合う学習集団へと成長が感じられるようになってきているが、共感的な人間関係の構築には課題を残した。 問題行動等の未然防止のための啓発を積極的におこない予防的な対応を実施している。問題や個別の事案には、生徒支援部、学年、S C、S S W等と連携したケース会議等において、即時に対応できている。	○発達支持的生徒指導の実現に向け、授業の中での生徒指導を充実させる必要がある。学力を高めるだけでなく、授業の中で生徒の個性を伸ばす生徒指導と授業規律等の社会性を身に付けられる生徒指導が一体化された授業へと改革を進める。 ○服装と頭髪等の課題については、クラスの正副担任を中心としつつも、教科担当者を含めた学校全体で共通理解を深め、一貫した指導を再構築し、規範意識や自己指導能力の向上を図る。
2	生徒間の学力格差は顕著であり、特別支援を要する生徒も存在する。個々の特性を理解し、組織的な対応ときめ細やかな学習指導の構築を目指す。	B	個々に応じた情報提供を行い、納得のできる進路実現を目指す。 生徒が主体的に取り組む授業づくりに向けた取組をする。 基礎学力を確立するために各教科の組織的な取組を具体化する。	ガイダンスや補習、模試などを計画的に行うことができたか。 授業を参観し合い授業力向上を目指したか。 探究型授業づくりに向け取り組んだか。 自己の考えを主張できるプレゼン能力やコミュニケーション能力の向上を図ることができたか。	A B A	進路ガイダンスや、進学補習、模試などを計画的に行った。 探究型授業作りに向けた取り組みを各教科で行っている。 授業中や探究中間発表会など発表の機会を増やすことで、自分の考えを主張する力がついてきている。	○より一層の授業改善に向け、授業の相互参観をより活発に行うよう見える化を行う。 ○探究型授業の充実、授業中から生徒が互いに尊重しあい主体的に協働して取り組む授業作りを目指し、教員間の交流を行う。
3	コロナ禍を経て、生徒会が各行事において平常通りの活動を行っていく。実施内容についてはさらに検討を進める。 部活動においては、昨年度以上に活動の活性化を検討する。	B	部活動のさらなる活性化に取り組む。 体育行事・文化祭その他の学校行事において地域に向けて本校の魅力を発信していく。 生徒会活動の活性化のための地域や他校との交流に取り組む。	活動の維持向上ができているか。 地域や関係機関との協力ができたか。 生徒会活動を積極的に行うことができたか。	A A B	地域と連携・協力して活動を行うことができた。 今年度は一般客を迎え、学校行事を行うことができた。 学校行事の運営に積極的に取り組むことができた。	生徒数減少が進む中で、生徒のニーズに合ったクラブ運営を行っていく。 学校行事等においても、現状を把握した運営を行う必要性がある。
4	地震や津波等により甚大な被害が想定される地域に位置する学校として、防災教育に注力する。 地域資源を生かした教育課程の編成・実践により特色ある教育活動を実現する。	B	生徒の「自助、共助、公助」意識の向上を図る防災教育を実施する。 コーディネーター等と連携し、外部とのネットワークづくりをより深化させる。 「地域と共にある学校」をより明確にし、地元出身生から選ばれる学校として広報活動に注力する。	災害発生時に適切な判断や行動ができるよう、防災スクールや避難訓練を通して意識の涵養を図れたか。 地域資源を生かした特色ある教育活動が充実したか。 入学生数が増えたか。	B A C	津波避難訓練は1,2学期に各1回行い、各クラス防災委員に集合点呼や時間計測を行わせ意識の向上を図ることができた。また、夏休みに1学年でJ Rとの合同避難訓練、2学年で11月に串本町役場の協力で避難場所における避難設備の設置等を行い、防災スクールにも力を注いだ。生徒は積極的に行動できるものが大半であるが、一部消極的で防災意識が低いように見受けられる。 地域協議会をはじめ、地元事業所等との連携の元、「地域まるごとキャンパス構想」を充実させることができた。 地元出身の入学生は残念ながら増えてはいない。広報活動は多くの教員を動員し、広く行っているが成果を結ぶまでには至っていない。中学校説明会やオープンスクールなどでは、在校生が取り組みを紹介するなどして力を注いでいる。	○避難訓練や防災学習における計画を綿密に行うために、防災委員会を活性化させる必要がある。さまざまな意見を交わし合ってよりよい防災計画を作っていく。 ○広報活動は今後も継続して行い、粘り強く生徒募集を行いたい。部活動の活性化や校舎設備の老朽化対策も課題の一つ。

学校関係者評価（3月25日実施）
○学科改編により、今年度からスタートした「宇宙探究コース」の取組をはじめ、本校ならではの地域資源を生かした特色ある学びは十分評価できる。一方で、本校が取り組む特色のある学びが地元の中学生や保護者、中学校教員などに十分認知されていないのではないか。本校の教育活動を知ってもらうための働きかけについて更に工夫を重ねていく必要がある。 ○校内設置型の公設塾である「くろしお塾」と連携しながら各教員が丁寧に進路指導したことで、生徒たちの進路実現が達成できていることは評価できる。県内最小規模の全日制高校という特性を強みにして、一人一人の生徒の面倒をほんとうによく見てくれている。一方、大学への進路実績も含めそういった情報が届いていないため、生徒数増に繋がっていないのではないかと。本校を目指そうとする子供たちを増やすための情報発信に注力すべきである。 ○身だしなみ指導において課題がある。教育内容が充実していても、服装や頭髪、制服の着こなしなど、目に見えるところがしっかりしていないと地元住民の本校に対するイメージは変わっていかない。引き続き粘り強い指導を期待する。